

コミュニティスクールだより



令和5年12月20日

12月9日(土)に行った学校運営協議会の内容をご紹介します。

1 確認事項

体育・健康教育授業地区公開講座について

1月20日(土)に行われる、体育・健康教育授業地区公開講座の内容について確認しました。順天堂大学名誉教授 樋野 興夫先生をお招きして6年生へ向けての授業と保護者向けの講演及び意見交換会を開催します。是非、皆様もご参加ください。

2 協議事項

令和5年度学校評価について

11月に保護者、児童に向けて行った令和5年度学校評価の結果について共有し、意見交流しました。児童アンケートでは、「授業が分かりますか」「授業で隣の人やグループの人と話し合うことは、学習の役に立ちますか」という設問への肯定的回答が95%を超えていました。「学習するとき正しい姿勢に気を付けていますか」の設問への肯定的回答は87%と他の項目より低い数値でした。タブレット端末を授業で多く活用していますが、端末の活用の際に視線が画面に近づいたり、姿勢が崩れたりする場面が見られます。端末利用時の姿勢への意識を高める指導をさらにしていきます。アンケート結果の詳細については、後日保護者の皆様にお知らせいたします。

その他、来年度の教育課程編成に向けて次の内容について次のような内容について協議しました。委員の皆様や学校評価で挙がったご意見を参考にしながら、来年度の教育課程を検討していきます。

- ・夏季休業中の課題の内容、量について
- ・タブレット端末な効果的な利用について(保護者会のハイブリット化など)
- ・三者面談の実施について(保護者、児童への学校生活のフィードバック)
- ・コロナ禍以降の学校行事の持ち方について
- ・教員の働き方について

次回、学校運営協議会は1月20日(土)に開催いたします。



大田区立調布大塚小学校

令和5年度 体育・健康教育授業地区公開講座

「自分らしさを失わないために大切なこと」

日時 令和6年1月20日(土)
6年生授業(2校時) 9時25分~10時10分
講演及び意見交換会 11時05分~11時45分

会場 大田区立調布大塚小学校2階 体育館

講師 順天堂大学名誉教授 樋野 興夫 先生

大切な人ががんになったとき、どう寄り添えばいいのでしょうか。「がん教育」では、『支える』と『寄り添う』の違い、『会話』と『対話』の違い、人間には存在自体に価値があること、などを真剣に学ぶ場であってほしい」とは、講師・樋野先生の言葉です。二人に一人ががんになる時代、がんの予防ではなく「がんになったらどう生きるか」という、がんへの心構えを学びます。

<樋野興夫先生プロフィール>



1954年島根県生まれ
順天堂大学名誉教授
順天堂大学医学部病理・腫瘍学客員教授
一般社団法人がん哲学外来理事長
2008年「がん哲学外来」を創設、「がん哲学外来&メディカル・カフェ」は全国約170ヶ所に広がっている。
日本癌学会奨励賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、第68回保健文化賞、平成30年度朝日がん大賞等受賞

著書は「がん哲学外来へようこそ(2016)」「大切な人ががんになったとき 生きる力を引き出す寄り添い方(2018)」「種を蒔く人になりなさい(2019)」「がん哲学のレッスン-教室で<いのち>と向き合う-(2020)」「もしも突然、がんを告知されたとしたら(2023)」など多数。